



## 186 組の中から選ばれた、6 名の新進アーティストによる展覧会を TOKAS 本郷で開催

「TOKAS-Emerging」は、トーキョーアーツアンドスペース（TOKAS）が2001年より行っている若手アーティストの活動支援プログラムです。日本国内を拠点とする35歳以下のアーティストを対象に公募を行い、個展開催の機会を提供しています。

今回の公募では、186組の応募から書類・面接による審査を経て選出した6名の精鋭による個展を、2026年4月から6月にかけて2会期で実施します。

それぞれの会期初日には本年度の公募審査員をゲストに招き、出展作家とのトーク・イベントを予定しています。新進アーティストの躍動の機会となる本展に、ぜひご期待ください。

## 展覧会概要

展覧会名：TOKAS-Emerging 2026

会期 | 出展作家：第1期 2026年4月4日（土）～5月3日（日・祝） | 寺田健人 西村涼 楊博（ヤン・ポー）

第2期 2026年5月16日（土）～6月14日（日） | 袁鏢涵（エンシャクカン） 沖見かれん 岸本望

会場：トーキョーアーツアンドスペース本郷（東京都文京区本郷 2-4-16）

開館時間：11:00-19:00（最終入場は30分前まで）

休館日：月曜日

入場料：無料

主催：トーキョーアーツアンドスペース（公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館）

ウェブサイト：<https://www.tokyoartsandspace.jp/archive/exhibition/2026/20260404-7535.html>

## 関連イベント

アーティスト・トーク

第1期 2026年4月4日（土）16:00-17:30

第2期 2026年5月16日（土）16:00-17:30

ゲスト：森啓輔（千葉市美術館 学芸員）

ゲスト：福元崇志（国立国際美術館 主任研究員）

< お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好 4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース（公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館）

広報担当：舟橋、市川、武智

TEL：03-5245-1142 FAX：03-5245-1140 E-mail：press@tokyoartsandspace.jp

## 公募概要

募集期間：2025年6月20日（金）～7月25日（金）

応募総数：186組

審査員：福元崇志（国立国際美術館 主任研究員）

森 啓輔（千葉市美術館 学芸員）

近藤由紀（トーキョーアーツアンドスペース プログラムディレクター）

## 本展の見どころ

### 時代を繊細に感じ取る若手作家の表現

今回選出された6名の作家たちはそれぞれ、風景に埋もれかかっている戦争の痕跡（寺田）、自然の流動性やいとなみ（西村）、自分と聴いている音楽との隔絶した距離（楊）、異邦人として生きる中で揺らぐアイデンティティ（袁）、身体の動きと見え方の関係（沖見）、都市に残された誰かの痕跡（岸本）に向き合っています。

それらは私たちにとって、日常の中で見過ごしてしまっているもの、忘れかけているもの、あるいは意識しないようになってしまったものであり、彼らの制作活動は、それらを改めて真摯に見つめる中で得たものを作品という形に変換する実践であると言えます。

若きアーティストたちは、あらゆるものがただシステムに乗って過ぎ行くように見える時代に、どのように作品を表現しているのか。

本展をとおして、これからの活躍が期待される新たな感性をぜひご覧ください。

### TOKAS-Emerging とは

TOKAS-Emerging は TOKAS の前身であるトーキョーワンダーサイトで2001年に始まった公募から派生したプログラムで、35歳以下のアーティストの才能を発掘し、今後の飛躍を後押しすることを目的としています。

当初は立体作品や平面作品が中心でしたが、近年はメディア・アートや、リサーチベースのプロジェクトによる応募も増加しています。

選考では、作品そのものから伝わる作家性、TOKAS-Emerging という機会を生かす今後の発展性が重視されます。採択された作家たちは、TOKAS と打ち合わせを重ね、会場施工の補助や照明の専門業者によるレクチャーを受けることで、プロフェッショナルと共に展覧会を作り上げる経験を積むことができます。

参加作家／広報用画像 ※詳しくは広報担当までお問い合わせください。

第1期 | 2026年4月4日(土)～5月3日(日・祝)

## 寺田健人 TERADA Kento

### 「A Pillow for the Fence, at Night in Okinawa」

存在しなかった家族の肖像など、不在や沈黙のイメージから、その背後にある制度を浮かび上がらせてきた寺田健人は、今回は自身の出身地である沖縄に今も残る戦争の痕跡を主題としています。作家の原風景でもある沖縄郊外の夜をイメージしたインスタレーションには、暴力や境界の象徴として戦後も残り続けてきたフェンスが、やわらかな枕へと姿を変え、眠りを待つように横たわっています。薄暗闇の中で明るく輝くネオンサインは「post WAR?」と問いかけています。

#### ■プロフィール

1991年沖縄県生まれ。2024年横浜国立大学大学院都市イノベーション学府都市イノベーション専攻博士後期課程単位取得後満期退学。主な展覧会に「遠い窓へ 日本の新進作家 vol. 22」(東京都写真美術館、2025)、「聞こえないように、見えないように」(Yumiko Chiba Associates、東京、2025)など。主な活動に「城崎国際アートセンター アーティスト・イン・レジデンス・プログラム」(KIAC、兵庫、2023)、主な受賞歴に「VOCA展 2026 現代美術の展望－新しい平面の作家たち」VOCA 奨励賞など。



1. 《okinawan silence – cracked departure》2025  
© Kento Terada, Courtesy of Yumiko Chiba Associates



2. 《命ぬ御祝事さびら》2025  
© Kento Terada, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

## 西村涼 NISHIMURA Ryo

### 「私の生命を旅する／形象を追放する／風景を見つめる」

自然の流動性や生命のいとなみ、時間の経過など、見過ごされてしまいそうなそれらを可視化するために、西村涼は対象を観察し、透明なプラスチックの版に彫って版画作品を制作しています。流れやエネルギーとともにそこにある「線」を写し取った版画は、彫られて捲れ上がった部分にインクが滲むことで、生命力を宿したような表情を見せます。本展では、考現学に寄与し、青森の風土のスケッチを東京に送り続けた版画家・今純三をなぞり、奥入瀬溪流のいとなみをそのスケールのまま持ち込みます。

#### ■プロフィール

1993年京都府生まれ。2018年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻版画修了。主な展覧会に「Shake 西村涼・柳大輝 二人展」(準備中・五木、東京、2025)、「Putting life on paper / 光の種子を蒔く」(TAKU SOMETANI GALLERY、東京、2025)など。主な活動に「アーティスト・イン・レジデンス プログラム 2023 “starquakes”」(国際芸術センター青森)、主な受賞歴に「Kyoto Art for Tomorrow 2024 一京都府新鋭選抜展」朝日新聞社賞など。



3. 《悠久を測る1》2024  
撮影：高野友実  
画像提供：京都精華大学ギャラリー Terra-S



4. 「時に潜る」展示風景、2023  
撮影：高野ユリカ  
画像提供：青森公立大学 国際芸術センター青森

## 楊博 (ヤン・ポー) YANG Bo 「Number Five Roulette」

自身とは離れた世代の音楽や映画に影響を受け、そこで語られる言葉を起点に制作してきた楊博は、今回、自身の絵画とともに、その絵画を「台本」とした映画を撮影しました。会場に建てられたスクリーンの中で、作家はある曲に登場するふたりの男と、自身が憧れたギタリストの役をそれぞれ演じます。周囲に並べられた絵画と同様に、その映画は歌われた言葉を自分のものとして引き受ける試みであり、信じてことや憧れることの手前で、なおも成立しうるための構造を立ち上げようとしています。

### ■プロフィール

1991年湖北省（中国）生まれ。2019年東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了。主な展覧会に「Take me to the river」(Yutaka Kikutake Gallery、東京、2026)、「project N 98」(東京オペラシティアートギャラリー、2025)など。



5. 《Roulette#3 (R.I.P Lou reed)》2023



6. 《No title (Hay Mr. Iggy Pop)》2017

## 第 2 期 | 2026 年 5 月 16 日 (土) ~ 6 月 14 日 (日)

## 袁 鑠 涵 (エンシャクカン) YUAN Shuohan 「近づくまで — 見えたその先は」

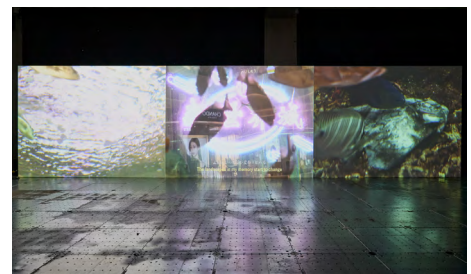
グローバル化によって多くの人々が移動し、異邦人になりうる現在、動き続けることで揺らぐ自己のアイデンティティの在り処を、映像という視覚言語で表現しています。鑑賞者が映像の中に自分の姿を重ね、誰もが感じる疎外感を共有するために、袁鑠涵は他者の記憶にセルフドキュメンタリーを重ねています。本展では、「夢の中の家はどんな場所か」という他者への問いかけを起点に、過ぎ去っていく風景の中で、それぞれが帰るべき原風景として抱く「家」のイメージを追いかけていきます。

### ■プロフィール

1998年上海生まれ。2025年東京藝術大学大学院美術研究科先端表現専攻修了。主な展覧会に「例えば（天気の話をするように痛みについて話せば）」(東京藝術大学大学美術館、2025)、「前橋映像祭」(裏の間 [re/noma]、2025)など。主な受賞歴に「きみの海南映画祭 [映像研究祭]」八竹賞 (2025) など。



7. 《近づくまで — 見えたその先は》2025



8. 《近づくまで — 見えたその先は》2025

## 沖見かれん OKIMI Karen

### 「噴火、その残像」

目を開けた瞬間の光の眩しさや、移動によって変化する視界と身体の反応など、人間の知覚と運動の関係性を、沖見かれんは絵画表現を通じて探究しています。例えば一瞬の光の経験は、撮影された動画から版画になり、さらに反転・分割・カラーチャートの作成といった複数の変換プロセスを経て、硫黄粉末による絵画として再現されます。こうしてホワイトキューブの中で展開される知覚と運動をめぐるイメージは、個人の記憶や体験を取り除いた純粋なものとして立ち現れます。

#### ■プロフィール

1991年和歌山県生まれ。2023年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了。主な展覧会に「ALLOS and ERGON」(POOL SIDE GALLERY、石川、2024)、「Kyoto Art for Tomorrow 2024 一京都府新鋭選抜展一」(京都文化博物館)など。主な受賞歴に「京都府新鋭選抜展」ゲート・インスティテュート・ヴィラ鴨川国際交流賞(2016)など。



9. 《地表（光）》 2025



10. 《from side window (two ellipses)》 2021-2023

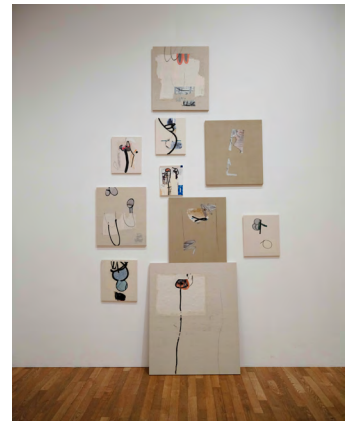
## 岸本望 KISHIMOTO Nozomu

### 「この星は円」

岸本望は都市に残された匿名の痕跡を拾い上げ、その断片と自身のドローイング（痕跡）を組み合わせたコラージュの作品を中心に制作しています。散りばめられた言葉から詩を紡ぐようなこの制作のモチーフとして、作家は異なる空間同士をつなげる「梯子」を挙げます。都市の中の自己と他者、あるいは過去と現在など、隔たるものの間に梯子をかけることで、作家はその境界が溶け合う瞬間を捉え、新たな感覚や物語を生み出すことを目指しています。

#### ■プロフィール

1998年茨城県生まれ。2025年東京藝術大学大学院美術研究科グローバルアートプラクティス専攻修了。主な展覧会に「ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2025」(行幸地下アートギャラリー)、「SHOWCASE vol.2 : Hokkaido/Tohoku by ArtSticker」(アートかビーフンか白厨、東京、2025)。主な受賞歴に「ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2025」ファイナリストなど。



11. 《Setting a Ladder, a Circle is Forming》 2024-



12. 《Setting a Ladder, a Circle is Forming》 2024-

# TOKAS-Emerging 2026

## 広報用画像申込書

Email : [press@tokyoartsandspace.jp](mailto:press@tokyoartsandspace.jp)

トーキョーアーツアンドスペース広報担当宛

(ご希望の広報用画像番号にチェックを入れてください。下記の URL からダウンロードも可能です。)

1  2  3  4  5  6  7  8  9  10  11  12  ウェブバナー

<https://www.tokyoartsandspace.jp/press/form/26>

掲載媒体名 (特集・コーナー名)

種別  TV  ラジオ  新聞  フリーペーパー  ネット媒体  その他 ( )

掲載/放送予定日 月 日 発売/放送 ( 月号)

貴社名

ご担当者名

Tel

E-mail (画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

画像到着希望日 月 日 時頃までに送付

- ・ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせ及びご要望に対応させていただき目的のみ利用させていただきます。
- ・お急ぎの場合はメールもしくは、お電話でお問い合わせください。

### 【注意事項】

- ・画像データは申請時の目的以外での使用はできません。ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。また、申請時とは別の媒体での使用、再販等の場合は改めて申請してください。
- ・画像データは、メールにてお送りします。お手元に届くまで1～2日(土日祝休み)ほど頂戴いたしますのでご了承ください。
- ・作品画像は全図でご使用いただき、トリミング、文字載せはお控えください。必ず所定のキャプション等を併記してください。
- ・提供した画像データは、使用後速やかに破棄してください。画像が無断で第三者に利用されることのないよう、Webサイトへのご掲載は、画像にコピーガードや転載不可の明記をしてください。
- ・情報確認のため、事前に記事原稿をお送りください。
- ・取材の内容が収録された番組等はビデオ・DVDを一部、印刷物(掲載誌・雑誌)については現物を1部もしくはコピーの場合は3部ご送付ください。Webサイトの場合は、掲載時にURLをお知らせください。

< お問い合わせ > ※校正ゲラ及び掲載誌紙・DVD等は下記宛にお送りください。

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース (公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 舟橋、市川、武智

TEL: 03-5245-1142 FAX: 03-5245-1140 E-mail: [press@tokyoartsandspace.jp](mailto:press@tokyoartsandspace.jp)